

山形県 東根市商工会青年部

カップル誕生へ「婚カツ部」始動

商工会青年部（森里史部長）が2010年4月に実行委員会を組織して検討を重ねてきた「ひがしね婚カツ部」活動が、昨12月からいよいよ始動した。約1年間にわたり独身男女が交流する集いで、20歳以上の男女各100人を募り、親睦会、料理やそば打ち体験、球技やカラオケ大会、「ひがしね祭」の運営協力など多彩な「部活動」を展開、継続的に交流を深める中でお互いをよく知り、好みの異性を探してもらおうというもの。

青年部はこれまでも未婚者の出合いのチャンス作りに熱心に取り組んでおり、山形空港を舞台に2006年から毎年開催しているカップリングパーティー「恋の浪漫飛行」には、例年県内外から定員一杯の180〜250人が参加している。誕生したカップルは06年度26組、07年度31組、08年度22組。09年度はより交流しやすくするため、男性グループと女性グループの3人1組で募集したところ、41組もの過去最高のカップルが成立した。

こうした活動をさらに展開しようとして新たに企画したのが「ひがしね婚カツ部」。活動の中心となる親睦会は地域経済の活性化も狙い、



市内の飲食店で週1回開催する。各飲食店が趣向を凝らし、20〜30人規模で実施する。参加者には事前にプロフィールを記入してもらい、参加者の希望に沿った男女限定のパーティーも開く予定。

12月11日にはさくらんぼタンクトクセンターで、入部式を行い、1年後には、卒部式を行う。その後、新メンバーでまた1年間活動する。参加希望者は加盟事業所に来店し、青年部員と面談したうえで登録するなど、顔の見える関係、を大切にしながら結婚に向けたサポートを行っていく。

青年部も参加している「やまがた婚活応援団+（プラス）」事務局の息子育て支援課では、「開催時間の設定など、多くの人が参加しやすい環境づくりが大切。単発のイベントはあちこちにあるが、200人規模で継続的に活動するのは珍しい」と評価する。青年部副部長で実行委員長を務める矢口匠彦さんは

「参加者の要望を聞きながら、青年部員も積極的に関わって随時内容の充実を図り、自然な流れの中でカップルが誕生するよう活動したい」と意気込んでいる。

沖縄県 本部（もとぶ）町商工会

沖縄そばで「そばの町」宣言

商工会（山川宗完会長）は地域おこしの起爆剤にしようとして、「沖縄そばの日」（10月17日）に町営市場でイベントを開き、県内で初めて「そばの町」を宣言した。町全体を「本部そば街道」と位置づけ、のぼりやマップでPRしている。イベントでは山川会長が「そば愛好者の誘客を高め、地域の食文化の向上と活性化を図りたい」と「そばの町」宣言を行い、沖縄そば200食が無料で振る舞われた。

手作り市を中心に地域活性化に取り組んでいる若者が結成した「もとぶそばポイズ（MSB）」が、そばをテーマにした街頭「麺ソーレそばの町」を披露。琉球民謡調で、オリジナル、カラオケ、ロック、ポップバージョンのCDも製作した。かつおだしが跳びはね、こしのあるめんの躍動感を表現したロゴ入りTシャツも販売中。

商工会が作成した「そばマップ」には、加盟51店舗が名を連ねている。リピーター作りを意識し、マップ裏面はウォークラリー形式にした。各店舗に配布し、

県内外の愛好家に浸透を図っていく。



町には沖縄そば屋が多く、県道84号は渡久地までの約8kmの間だけでも多彩なそばを出す店が約20軒あり、観光ガイドブックにも紹介されている。そば屋が増えたのは、だしをとるカツオ漁が盛んだったことや、豚肉やかまぼこなどの具材も手に入れやすかったからといわれる。「山原そば」を構えて38年の塩見則男さんによると、「海洋博へのメインストリートとして交通量が増え、次々に新しい店がオープンし、互いに味にしのぎを削ってレベルが上がった」という。商工会会長の松田泰昭さんは「店に足を運んでもらうだけではなく、お客さんが街なかまで足を伸ばし、町の魅力に触れてくれれば」と、素通りされがちだった町を再生させたい考えだ。

三重県 桑名三川商工会

無料買い物バス「スタバス」始まる

商工会会員ら桑名市長島町の小売、飲食店をつくる「長島スタンプ会」が、町民を対象に自宅から加盟店まで送迎する無料の買い物バス「スタバス」の試行を始めた。12月20日、桑名三川商工会長島支所で出発式が行われた。3月まで利用状況などを検証し、4月から本格実施を目指す。

高齢者など交通弱者の足を確保し、加盟店の活性化を図ろうという狙い。県内でも珍しい試みで、会員の

「買い物に困っている高齢者を助けない」という気持ちから始まった。利用には予約が必要で、電話で申し込むとマイクロバスが自宅と加盟店16店を往復してくれる。運行は平日の午前10時から午後4時ごろまで。

スタンプ会が加盟店のレンタカー会社1社と契約し、桑名三川商工会の補助を受けて実施。将来的には公共機関や病院なども送迎対象に加え、運行費を車内広告などで賄いたい考え。

「商工会の森」で 環境保全を推進



県連（村岡淑郎会長）は法施行50周年事業の一環として、2010年6月、県内21商工会と「全県商工会エコ活動宣言」を行い、「エコで作ろう秋田の元氣」をテーマに、工場やオフィスでの夏場の電気使用量削減を競う「エコリンピック」、女性部の「エコキャップ回収運動」、青年部の「全国

一斉クリーンアップ」など各種事業に取り組んでいる。さらに11月9日には、秋田県が創設した「企業による水と緑の森づくり」制度を活用し、秋田市内に0.66ヘクタールの山林を所有者から5年間無償で借り受け、「商工会の森」を開設した。

当日のセレモニーでは、村岡会長が「商工会が森林を整備するのは全国的にも珍しい取り組みだが、秋田の強みである豊かな自然を次世代に引き継いでいきたい」と力強くあいさつし、ケヤキの植樹を行った。

その後、12月には杉やケヤキなど約1600本を植樹し、5年間のCO₂吸収量は5.9トンと秋田県から認定された。



「日替わりシエフ」が大好評



西大和の複合商業施設「そすいスクエアアーク」の「多目的キッチン狩野」で、11月24日と12月2日の2日間にわたり、市民が自慢の料理をランチで提供する「日替わりシエフ」が登場した。キッチン狩野は、商工会が県商店街活力再生（空き店舗活用型）事業の委託を受けて運営しており、日替わりシエフはその事業の

一つ。シエフ1号は大田原市の主婦・八木沢志乃さんで、ヒラタケ、シメジ、牛肉など栃木県産食材と、山形県村山市の実家まで行って入手したサトイモ、長ネギ、特産「ベニヤ醤油」を使った「山形名物・芋煮定食」を提供した。600円で限定40食を販売したところ、11時の開店から2時間後には完売した。12月の日替わりシエフでは、地域ブランド・那須郡司豚を使った「那須豚ステーキ丼」を販売したが、店の本格的な厨房を使い、プロの手助けもあることから、日替わりシエフは好評を博している。

恐竜の1口飼い主募集中

商工会の祭り委員会（栗崎信夫委員長）は、町内でみつかった肉食恐竜ミフネリユウを生かしたまちおこしを図ろうと、「恐竜の1口飼い主」の募集を始めた。集めた資金で恐竜の像を製作し、毎年夏に開かれる「があーっば祭り」などのイベントに活用する。

11月14日には、御船川河川敷で開催された町商工感謝祭の会場で像のモデルの絵を掲示し、「飼い主」の受け付け窓口を特設した（15日以降は商工会で受け付け）。1口2000円で、目標は50万円。

栗崎委員長は「本年度内に目標額達成を目指し、高さ2.5m、全長6m程度の像を製作する予定です。台座には出資者の芳名板も掲示します。完成後も別の恐竜像を作り、あちこちに恐竜を展示できるようにしたい」と意欲満々だ。



お知らせ

気軽に相談、身近な窓口

「独占禁止法相談ネットワーク」は、皆様からの「ご相談を受け付けております」

●このようなことでお困りではありませんか？

◆どんな情報交換をされると問題なの？

◆マーケティングの内容が独占禁止法に違反？

◆取引先が代金を一方的に減額している。買ったときに遭っている。注文どおりにのに返品された！ 下請法違反行為じゃないの？

商工会では、このような独占禁止法や下請法に照らして問題になるのではないかとといった相談を受け付けております。

内容、ご希望により、公正取引委員会の窓口を迅速にご紹介します。公正取引委員会では、ご相談に応じ、適切な対処、的確な対応をいたします。

●お問い合わせは...

お近くの商工会または
公正取引委員会事務局
Tel. 03-3581-5481
または同委員会各地方事務所まで

宮城県

名取(なとり)市商工会

プロ野球OB、小学生に技を伝授



商工会(小島哲夫会長)の創立50周年を記念し、市民球場で少年野球教室が開かれた。名取市や仙台市などの少年野球14チームに所属する174人が参加し、プロ

野球ヤクルトスワローズ元外野手の杉浦亨さん、元捕手の青柳進さん、元投手の花田真人さんの3人が小学生の指導にあたった。

杉浦さんらは野球の基本技術のほか、「常に目的意識を持って一つひとつのプレーを行うこと」と話し、参加した新田蓮歩君(仙台市柳生小学校)は「走塁する時の正しいベースの踏み方などを教わったので、練習や試合で生かしたいと思います」と喜んでいました。

島根県

川本町商工会青年部

空き店舗を活用してライブバー



町の社交場として賑わい、昨年2月に惜しまれながら閉店した老舗スナック「ブルーリバー」が11月19日、生演奏を楽しめるライブバーを開いた。

スナック「ブルーリバー」は、邑智郡の郡都ともいわれた賑わった中心飲食店街で、約40年にわたって営業してきた。その店舗跡を活性化のために生

かしたいと、青年部が活用案を提案。店舗の一部をステージに改修し、ドラムやギターを持ち寄るなど、開店準備を進めてきた。

店名は「ブルーリバー」の名を引き継ぎ、18時開店、金曜日と土曜日は午前5時ごろまで営業する。郡内3町や近隣の大田市などで楽器演奏ができる人に出演を依頼し、月2回程度の定期ライブを目指す。

店長を務める青年部の木下祐貴さんは昼間は近くの金物店で働いているが、「人通りが減った飲食店街にまた火を灯し、音楽を通じて少しでも町を元気づけたい」と話している。

岩手県

西和賀商工会女性部

高校生と地産地消グランプリ



商工会女性部(高鷹峰子部長)は、西和賀高校文化祭「西高祭」で行われた「第2回西高生地産地消グランプリ」に、生徒が考案したメニューを調理して出展した。

地元食材でメニューを創出するグランプリの今回のテーマは乳製品の使用。生徒が考えたレシピをもとに、女性部員が調理をサポートした。試食として約100食を

来場者に提供し、投票で優秀作品を選んだ。

地元のフラビやゼンマイを使った「山菜のドリア」、秋の味覚を生かした「秋の味もっこクリームパスタ」、ほかにはないメニューを狙った「湯田自慢のアスパラ冷製スープ」など、オリジナル料理の中から、グランプリには高橋裕樹君の「草原のナチュラルクリームチーズケーキ」が選ばれた。

鹿児島県

西之表(にしのおもて)市商工会

若い視点で商店街を紹介

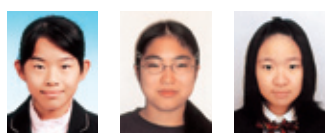


種子島高校と種子島中学校の生徒が地元商店街を取材・紹介した無料小冊子が発行された。商工会が主催し、中高生が所属するボランティア団体が「種子島レオクラブ」に協力を呼びかけて製作した。A4判、12ページ、フルカラーの小冊子2冊で37店舗を紹介している。

生徒たちは手分けして商店街を回り、お薦め商品や島の魅力を取材し、商工会青年部メンバーが写真撮影を担当した。

生徒たちは初めて入る店もあつたが、いろんな話が聞けて面白かった。「この冊子を見て多くの人がお店に足を運び、商店街が明るくなれば」と話していた。

製作した2冊各1000部は、西之表港の観光案内所や市役所、店舗などで無料配布している。



第159回 全国商工会珠算検定試験1級満点合格者
(平成22年11月21日実施)

- 橋本奈々子 埼玉県入間市商工会 本間珠算塾
- 伊藤優希 愛知県岩倉市商工会 名和学園
- 伊藤有希 愛知県岩倉市商工会 名和学園